

教育保育目標：自分が好き・人が好き・遊ぶのが大好きな子どもを育む

重点目標：一人一人の心の動きを大切に保育をめぐして  
～乳幼児理解を深め、みんなで保育を考えよう～

項目	重点項目	現状 (◎△)	達成目標・具体的施策	自己評価 (◎△)	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学びの場である教育保育の充実	『自分が好き』 「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	○	・「お子様は自分が愛されていると感じ、明るく元気に園生活を過ごしている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・園児が明るく元気に園生活を送れるよう、一人一人に愛情豊かに丁寧な関わりを行う。	○	・アンケート項目で、100%の肯定的な回答を得ることができた。 ・園児一人一人が周りの大人(保護者・職員等)に愛されていると感じながら、安心して園に登園することができていた。	・子どもが愛情を実感して育つことができているかどうかは、心の内側という判断しにくい部分である為、引き続き子ども達が自分は愛されていると感じられるような保育を行う。	・次年度も引き続き、丁寧な関わりを大切にして欲しい。
	『人が好き』 ちがいを認め合える仲間づくり	○	・「お子様は、友達や保育者と関わる中で、一緒にいる心地よさや人に対する信頼感を感じている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・人権教育の観点から、保護者への啓発や研修の機会を設ける。	○	・100%の肯定的な回答を得ることができた。 ・子どもの実態を共有することで、個々の成長や次への課題だけでなく、仲間づくりの在り方を考えることができた。 ・子どもと一緒に人権を考えられる研修内容にしたことで、家族で考えたり話したりして意識を深めることができた。また、保護者アンケートの回収率が昨年度より上がった。	・子ども同士が互いに気付き支え合ったり、励まし合ったりできる心を育くむような保育を今後も行い続けていく。 ・同和教育や性的マイノリティ、子どもの人権などいろいろな人権教育の問題に意識をもてるような研修の計画を立てる。	・目の前の実体験と向き合い、その時にしっかりと向き合うことを大切にして欲しい。
	『遊ぶのが好き』 資質・能力を育む保育の推進	○	・「お子様はこども園で自分のやりたい遊びがあり、その遊びを楽しもうとしている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・一人一人の子どもが夢中になって遊べる保育環境を、計画的に継続して整える。	○	・100%の肯定的な回答を得ることができた。 ・遊びの環境を子どもの実態から考えることを心掛けた。 ・定期的な会議の中で、子どもの興味に合わせた環境を考え合うことができた。	・クラスや学年での遊びについての話し合いを計画的に行い、保育環境を整えられるよう、園務日程計画に明記し、実践する。 ・写真や動画を利用し、子どもが夢中になって遊んでいる姿を見つけ、個々の内面理解を深める。	・引き続き、教育保育目標達成のために頑張ってもらいたい。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	○	・「こども園は、職員研修を行いながら、保育の質の向上に努めている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・年間計画を立て、計画的にすすめる。	○	・100%の肯定的な回答を得ることができた。 ・年5回の公開保育、年4回の講師からの指導助言、年9回の語り合いの会を行いながら、職員一人ひとりが教育保育について学び、保育力向上に努めることができた。 ・同和問題やインクルーシブ教育に関する職員研修を年間5回行うことができた。	・今年度の成果を積み重ねていけるよう、今後も職員一人ひとりが自ら課題意識をもって、主体的に学ぶことができるような研修計画を立てる。	・様々な事象に向き合える感覚を今後も身に付けられるようになって欲しい。
	チーム保育の推進	○	・「こども園は、複数の職員が連携を取り合いながらチームで保育を行っている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・園児一人一人の姿を職員皆で共有しあい、支えられるよう、日々こまめに報告連絡相談を行うと同時に、月1回乳児、幼児会議、職員会議、他にも適宜会議を実施する。	○	・95%の肯定的な回答を得ることができた。 ・子どもの姿はこまめに共有し、全体での話し合いや会議も概ね達成したが、様々な業務を抱える中で、各学年やクラスでの細かな話し合いの機会を持つことは難しかった。	・子どもの姿は日々変化するので、職員間で丁寧な伝達を行う。 ・職員一人ひとりが互いに協力し合い、子どもが力を存分に発揮できるように連携をとる。 ・働きやすい職場づくりを心掛け、職員の力が発揮できるような認め合いを大切にする。	・引き続き、働き方改革と共に頑張ってもらいたい。
	小学校教育との接続	△	・「こども園は、なめらかな小学校接続を意識し、小学校がより身近な環境と感じられるような教育保育を進めようとしている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・年間計画をもとに小学校の校庭やプール図書室等に行く日程を設ける。 ・就学前教育で大切にしていることを園内研修等を通して保育公開し、子どもの育ちを発信する。	△	・90%以上の肯定的な回答を得ることができた。 ・計画をもとに校庭やプール等を利用し、その都度、活動の様子をホームページや動画を配信したことで積極的に交流を図ることができた。 ・保育研修会では、自園職員の学びの他に、11施設15名の参加者に向け、小学校教育への接続の在り方を発信することができた。	・動画や手紙等を通して子ども同士の交流がもてるような機会をつくり、子ども達にとって小学校がより身近に感じられるような実践を行う。 ・乳幼児期の学びを小学校教育に滑らかに繋げていけるよう、職員の学びと同時に保護者への啓発を行う。	・多忙の中でも、接続、連携が重要であるという認識を共有できるように工夫する必要がある。 ・小学校が隣接している強みを生かして欲しい。
開かれ信頼される園づくり	職員の危機管理能力の向上	△	・「こども園は、避難訓練や交通安全指導等、乳幼児の安全に関する適切な指導を行っている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・年12回の避難訓練、年2回の不審者訓練、5歳児保護者と子ども向けの親子安全教室を実施し、火災や地震や水害や防犯、交通安全などに対する適切な対応を確認し、有事に備えられるようにする。	○	・100%の肯定的な回答を得ることができた。 ・年12回の避難訓練及び年2回の不審者訓練、5歳児の保護者と子ども向けの親子安全教室の他に、職員の消火栓訓練、誤飲時の対応方法についても研修する機会を持つことができた。	・今後も乳幼児の安全な生活を守る為、職員は危機管理能力の向上に向け、年間で計画的に訓練や研修等を行っていく。 ・実践的に学ぶことができる機会をもつ。	・今後も計画的かつ継続的に訓練や学び合いを行っていくことが大切である。
	園情報の積極的な発信	○	・「こども園は園情報・教育保育内容を配信や掲示板、ホームページなどを通じて適宜保護者に伝えている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上である。 ・継続して週1回のホームページ更新、月2回の動画配信、タイムリーに保育の様子を知らせるようにする。	◎	・95%以上の肯定的な回答を得ることができた。 ・動画配信は、各クラス2回以上配信し保育の可視化に努めた。 ・保育の様子を写真や掲示物でタイムリーに知らせ、生活の様子を可視化することができた。	・来年度から導入される新保育システムを円滑に利用し、継続して情報の発信を行う。 ・保育の中で大切にしていること等、保育の可視化と同時に伝えていく。	・ホームページを見やすくするなど、効果的な情報発信方法を見極め、働き方改革とのバランスを考えると大切である。
	地域交流 子育ての支援	○	・「こども園は、園開放や育児相談、子育ての支援等を行っている」のアンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。 ・未就園児子育て支援につながる園庭開放、年9回のさくらっこ広場を実施する。 ・在園児子育て支援につながる園庭開放や預かり保育を実施する。	○	・100%の肯定的な回答を得ることができた。 ・未就園児子育て支援では、さくらっこ広場で年間延べ170人の利用があった。 ・在園児子育て支援につながる、園庭開放は、毎月約60～180人が利用、預かり保育は、月20日以上実施し、1日約20人以上の利用があった。	・今後も園が地域の集いの場になるような広場を行い、広く園庭開放を実施する。 ・在園児保護者の預かり保育利用や地域の方が使いやすい園庭開放のあり方を考え、保護者が気軽に子育て相談ができるよう、信頼関係作りに努める。	・行事等の案内をできる限り早めに欲しい。
関係者評価総括			・『自分で考えて行動する力』を身に付けるには長い時間と継続性が必要。今後も子どもが未来を生き抜く力が身に付く教育保育を目指して欲しい。 ・アンケートの回収率が低いが、その結果は現状におおむね満足していると捉えてよいのではないかと。 ・要望に対して、優先順位をつけて取り組んでいくとよいのではないかと。				
次年度に向けた重点的な改善点			・子どもの実態を踏まえ、非認知能力という目に見えない力を育む教育保育を実践し、その育ちを積極的に発信していく。 ・優先順位をつけ、業務のスリム化を図る。				